

日本語 HP DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS

リリース・ノート

2006 年 7 月

本書では、日本語 DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS の制限事項、使用方法に関するヒント、その他有用な情報について説明します。

ソフトウェア・バージョン: 日本語 HP DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS,
V2.5

オペレーティング・システム: 日本語 OpenVMS Alpha V6.2, V7.3-2, V8.2
日本語 OpenVMS I64 V8.2, V8.2-1
日本語 OpenVMS VAX V5.5-2, V6.2, V7.3

日本ヒューレット・パッカード株式会社

2006 年 7 月

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. が保有しており，本書中の解説および図，表は Hewlett-Packard Development Company, L.P. の文書による許可なしに，その全体または一部を，いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また，本書に記載されている事項は，予告なく変更されることがありますので，あらかじめご承知おきください。万一，本書の記述に誤りがあった場合でも，日本ヒューレット・パカードは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は，所定のライセンス契約が締結された場合に限り，その使用あるいは複製が許可されます。

© 2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Microsoft および Windows は米国 Microsoft 社の商標です。

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は，各社の商標または登録商標です。

本書は，日本語 VAX DOCUMENT V 2.1を用いて作成しています。

目次

| | |
|--|-----|
| まえがき | vii |
| 1 英語版 DCPS と日本語 DCPS との対応 | |
| 2 日本語 DCPS V2.5 について | |
| 2.1 新しいプリンタのサポート | 2-1 |
| 2.2 日本語 DCPS V2.5 で修正された問題点 | 2-1 |
| 2.3 日本語 DCPS V2.5 に含まれない機能 | 2-2 |
| 2.4 対応ソフトウェア | 2-2 |
| 2.5 日本語ドキュメント | 2-3 |
| 3 英語版 DCPS Version 2.5 について | |
| 3.1 DCPS V2.5 の変更点 | 3-1 |
| 3.1.1 新しいプリンタのサポート | 3-1 |
| 3.1.2 LPD サポートの拡張 | 3-1 |
| 3.1.2.1 スプール機能の概要 | 3-1 |
| 3.1.2.2 スプール機能の有効化 | 3-2 |
| 3.1.2.3 スプール・エラー | 3-3 |
| 3.1.3 インストレーション・プロセスの改善 | 3-3 |
| 3.1.4 フラグ・ページの改善 | 3-3 |
| 3.2 DCPS V2.5 での修正 | 3-3 |
| 3.2.1 プリンタ・キューの開始とジョブの削除に関する問題 | 3-3 |
| 3.2.2 トレイ選択時のジョブの失敗 | 3-4 |
| 3.2.3 ホチキス止めエラー | 3-4 |
| 3.2.4 PostScript エラーで LPD ジョブが失敗する問題 | 3-5 |
| 3.2.5 キットからの AppleTalk ファイルの欠落 | 3-5 |
| 3.2.6 Integrity サーバの性能 | 3-5 |
| 3.2.7 起動時の間違った OLDSETUP メッセージ | 3-5 |
| 4 プリンタ固有の情報 | |
| 4.1 プリンタのファームウェア | 4-1 |
| 4.1.1 プリンタのサービス・エラー | 4-1 |
| 4.1.2 キューの起動に関する問題 | 4-2 |

| | | |
|-------|--|-----|
| 5 | 日本語 DCPS の使用上の注意事項および制限事項 | |
| 5.1 | HP LaserJet プリンタにおける日本語ファイルの出力に関する注意事項 | 5-1 |
| 5.1.1 | LaserJet プリンタでの日本語出力に関する制限事項 | 5-1 |
| 5.2 | A4 用紙にランドスケープ・モードで印刷する場合 | 5-1 |
| 5.3 | 半角英数字フォント | 5-2 |
| 5.4 | テキスト・トランスレータ | 5-2 |
| 5.5 | 日本語版 DCPS に関するその他の情報 | 5-7 |
| 5.5.1 | カラー・セパレータ・ページと日本語 PrintServer 17/600 給紙トレイ切り替えの相互作用 | 5-7 |
| 6 | DCPS の制限事項 | |
| 6.1 | OpenVMS V8.2 およびそれ以降のバージョンにおける AppleTalk | 6-1 |
| 6.2 | 自動検出機能付きプリンタを使用する場合の注意事項 | 6-1 |
| 6.3 | Raw TCP/IP または LAT キューでのジョブの "Starting" 状態 | 6-2 |
| 6.4 | Raw TCP/IP キューでのジョブの "Starting" 状態 | 6-2 |
| 6.5 | Raw TCP/IP キューの接続の切断 | 6-3 |
| 6.6 | 使用不能な Raw TCP/IP プリンタについての NOT_READY 警告メッセージ | 6-4 |
| 6.7 | カラー PostScript を生成できないトランスレータ | 6-4 |
| 6.8 | PostScript Level 2 プリンタでのジョブのトレーラ・ページのシフト排紙 | 6-4 |
| 6.9 | 特定のプリンタでの ANSI トレイ選択不可 | 6-4 |
| 6.10 | ホストにステータス・メッセージを送信しないいくつかのプリンタ | 6-5 |
| 6.11 | プリンタ名の出力に関する問題 | 6-6 |
| 6.12 | DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services を必要とする DDIF 出力 | 6-6 |
| 6.13 | NUMBER_UP および PostScript ドライバの互換性 | 6-6 |
| 6.14 | PAGE_SIZE パラメータを無視する LIST トランスレータ | 6-6 |
| 6.15 | 挿入された PJI コマンドの無視, バイナリ・モードは避けるべきこと | 6-6 |
| 6.16 | 接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP /QUEUE /RESET の使用回避 | 6-7 |
| 6.17 | DELETE /ENTRY でのジョブのトレーラ・ページの出力 | 6-7 |
| 6.18 | /COPIES を指定した出力時の PostScript ファイルの問題 | 6-7 |
| 6.19 | /JOB_COUNT を指定した場合の PAGE_LIMIT 使用の問題 | 6-8 |
| 6.20 | I/O バッファ設定が小さすぎる場合の OPCOM エラー発生の可能性 | 6-8 |

7 DCPS に影響を与えるその他の制限事項

| | | |
|-----|---|-----|
| 7.1 | 時刻変更後の DCPS プロセスによる CPU 時間の消費 | 7-1 |
| 7.2 | キューの起動による無効なデバイス名のエラー | 7-2 |
| 7.3 | マルチストリーム・シンピオントでのキュー起動の問題 | 7-2 |
| 7.4 | シリアル接続プリンタの I/O エラー | 7-3 |
| 7.5 | アクセス違反あるいは不正パラメータ・エラーによるシンピオントの強制終了 | 7-3 |

A Raw TCP/IP ポート番号

表

| | | |
|-----|--------------------------------------|------|
| 1 | 日本語 DECprint Supervisor ドキュメント | viii |
| 3-1 | スプール・ファイル・エラー・メッセージ | 3-3 |
| 4-1 | ファームウェアによるサービスエラーの修正 | 4-1 |
| 4-2 | 推奨される最小ファームウェア・バージョン | 4-2 |
| A-1 | raw TCP/IP ポート番号 | A-1 |

本書の対象読者

このドキュメントでは、本バージョンの日本語 DECprint Supervisor における新機能、問題点の修正、使用上のヒント、制限事項、およびその他の情報について説明します。このドキュメントは、DCPS をインストールするシステム管理者、および実際に使用する一般ユーザを対象としています。

本書の構成

本書の構成は以下のとおりです。

- 第 1 章、DCPS の英語版と日本語版の関係について説明しています。
- 第 2 章、日本語版 DCPS V2.5 の新機能および変更点について説明しています。
- 第 3 章、英語版 DCPS V2.5 における変更点について説明しています。
- 第 4 章、DCPS で特定のプリンタを使用する場合の注意事項について説明します。
- 第 5 章、日本語 DCPS V2.5 の制限事項について説明します。
- 第 6 章、英語版 DCPS V2.5 の制限事項について説明します。
- 第 7 章、DCPS に影響を与えることが判明している OpenVMS オペレーティング・システムの問題について説明します。
- 付録 A、IP プリンタを設定する際に使用されるポート番号を示します。

関連資料

DCPS については次のドキュメントを参照してください。

表 1 日本語 DECprint Supervisor ドキュメント

| | |
|----------------------------|--|
| 『リリース・ノート』 | DCPS の使用上の注意事項について説明しています。 |
| 『インストール・ガイド』 | DCPS のインストール方法について説明しています。 |
| 『システム管理者ガイド』 | システム管理者、データセンタ・オペレータ、アプリケーション・プログラマが、DCPS プリント・キューをどのように作成/管理し、印刷に関する問題を解決するかを説明します。 |
| 『ユーザーズ・ガイド』 | DCPS を使用して PostScript プリンタに印刷する方法について説明しています。 |
| 『ソフトウェア仕様書 (SPD 48.27.xx)』 | DCPS がサポートするプリンタの一覧、DCPS V2.5 の機能と動作環境について説明しています。 |

HP OpenVMS の製品およびサービス情報については、下記の URL の Web サイトを参照してください。

<http://www.hp.com/jp/openvms/> (日本語)

<http://www.hp.com/go/openvms/> (英語)

本書の表記法

このドキュメントでは以下の表記法を使用します。

| 表記法 | 意味 |
|--|---|
| Ctrl/x | Ctrl/x という表記は、Ctrl キーを押しながら別のキーまたはポインティング・デバイス・ボタンを押すことを示します。 |
| Return | 例の中で、キー名が四角で囲まれている場合には、キーボード上でそのキーを押すことを示します。テキストの中では、キー名は四角で囲まれていません。 HTML 形式のドキュメントでは、キー名は四角ではなく、括弧で囲まれています。 |
| ... | 例の中の水平方向の反復記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> 文中のオプションの引数が省略されている。 前出の 1 つまたは複数の項目を繰り返すことができる。 パラメータや値などの情報をさらに入力できる。 |
| . | 垂直方向の反復記号は、コードの例やコマンド形式の中の項目が省略されていることを示します。このように項目が省略されるのは、その項目が説明している内容にとって重要ではないからです。 |
| () | コマンドの形式の説明において、括弧は、複数のオプションを選択した場合に、選択したオプションを括弧で囲まなければならないことを示しています。 |
| [] | コマンドの形式の説明において、大括弧で囲まれた要素は任意のオプションです。オプションをすべて選択しても、いずれか 1 つを選択しても、あるいは 1 つも選択しなくても構いません。ただし、OpenVMS ファイル指定のディレクトリ名の構文や、割り当て文の部分文字列指定の構文の中では、大括弧に囲まれた要素は省略できません。 |

| 表記法 | 意味 |
|--------------------|---|
| [] | コマンド形式の説明では、括弧内の要素を分けている垂直棒線はオプションを 1 つまたは複数選択するか、または何も選択しないことを意味します。 |
| { } | コマンドの形式の説明において、中括弧で囲まれた要素は必須オプションです。いずれか 1 のオプションを指定しなければなりません。 |
| 太字 | 太字のテキストは、新しい用語、引数、属性、条件を示しています。 |
| <i>italic text</i> | イタリック体のテキストは、重要な情報を示します。また、システム・メッセージ (たとえば内部エラー <i>number</i>)、コマンド・ライン (たとえば <i>/PRODUCER=name</i>)、コマンド・パラメータ (たとえば <i>device-name</i>) などの変数を示す場合にも使用されます。 |
| UPPERCASE TEXT | 英大文字のテキストは、コマンド、ルーチン名、ファイル名、ファイル保護コード名、システム特権の短縮形を示します。 |
| Monospace type | <p>モノスペース・タイプの文字は、コード例および会話型の画面表示を示します。</p> <p>C プログラミング言語では、テキスト中のモノスペース・タイプの文字は、キーワード、別々にコンパイルされた外部関数およびファイルの名前、構文の要約、または例に示される変数または識別子への参照などを示します。</p> |
| – | コマンド形式の記述の最後、コマンド・ライン、コード・ラインにおいて、ハイフンは、要求に対する引数とその後の行に続くことを示します。 |
| 数字 | 特に明記しない限り、本文中の数字はすべて 10 進数です。10 進数以外 (2 進数、8 進数、16 進数) は、その旨を明記してあります。 |

英語版 DCPS と日本語 DCPS との対応

日本語 DECprint Supervisor V2.4 for OpenVMS は、英語版 DECprint Supervisor V2.4 for OpenVMS を日本語用に拡張した製品です。本製品によって、さまざまな日本語 PostScript プリンタがサポートされます。

なお、英語版 DECprint Supervisor V2.4 は、現時点では日本でサポートされていないプリンタ製品もサポートしています。日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ではそれらのプリンタをサポートするための機能を削除してはいませんが、それらの機能に対する弊社からのサポートは受けられません。また、日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS には、HP PCL トランスレータなど、日本語に対応していないコンポーネントもそのまま含まれています。今後、サポートされるプリンタ製品および日本語機能が追加された場合には、その時点の『ソフトウェア仕様書』および『リリース・ノート』に記述します。

日本語 DCPS V2.5 について

この章では、日本語 DCPS V2.5 で変更された機能について概要を説明します。いくつかの変更点については、本書の別の箇所でも詳しく説明しています。

日本語 DCPS V2.5 は英語版 DCPS V2.5 をもとに開発されており、英語版 V2.5 の機能に加えて、日本語機能の拡張が行なわれています。

英語版 DCPS V2.5 の機能変更については、第 3 章を参照してください。

2.1 新しいプリンタのサポート

日本語 DCPS V2.5 では、新たに次のプリンタがサポートされます。

- HP LaserJet 4240
- HP LaserJet 5200
- HP Color LaserJet 4700
- RICOH IPSiO NX860e
- RICOH IPSiO CX8800

注意

HP LaserJet プリンタまたは HP Color LaserJet プリンタで日本語を印字するためには、日本語 PostScript フォントを提供する別売のコンパクト・フラッシュ・メモリ・カードが必要になります。詳細は第 5.1 節を参照してください。

2.2 日本語 DCPS V2.5 で修正された問題点

日本語 DCPS V2.5 では、次の問題点が修正されています。

- HP LaserJet OCR-B フォント指定時の印刷エラー

HP LaserJet OCR-B フォント指定時に印刷できない問題 (文字化け、異常終了) が修正されています。

2.3 日本語 DCPS V2.5 に含まれない機能

次の機能は、日本語 DCPS V2.5 では提供しません。

- セパレータ・ページへの日本語ファイル名の印刷
- パンチ機能のサポート

2.4 対応ソフトウェア

日本語 DCPS V2.5 は下記のソフトウェアバージョンに対応します。

- オペレーティングシステム
 - 日本語 OpenVMS Alpha V6.2, V7.3-2, V8.2
 - 日本語 OpenVMS I64 V8.2 , V8.2-1
 - 日本語 OpenVMS VAX V5.5-2, V6.2, V7.3
- 日本語 PrintServer 構成の場合:
日本語 PrintServer ソフトウェア V5.0 以降と、次のいずれかのソフトウェア：
 - HP DECnet for OpenVMS
 - HP DECnet-Plus for OpenVMS
 - HP TCP/IP Services for HP OpenVMS
 - Process Software MultiNet for OpenVMS³
 - Process Software TCPware for OpenVMS³
- TCP/IP 構成の場合：
次のいずれかの TCP/IP ソフトウェア
 - HP TCP/IP Services for HP OpenVMS
 - Process Software MultiNet for OpenVMS³
 - Process Software TCPware for OpenVMS³
- AppleTalk 構成の場合：
 - PATHWORKS for OpenVMS (Macintosh) V1.3 以降 (Alpha および VAX)

³ MultiNet for OpenVMS および TCPware for OpenVMS は、米国 Process Software 社の製品です。

各ソフトウェアのサポート・バージョンについては次の表を参照してください。

| OpenVMS | TCP/IP Services | DECnet | DECnet-Plus |
|--------------|-----------------|--------|-------------|
| Alpha V6.2 | V4.2 | V6.2 | V6.3 |
| Alpha V7.3-2 | V5.4 | V7.3-2 | V7.3-2 |
| Alpha V8.2 | V5.5 | V8.2 | V8.2 |
| I64 V8.2 | V5.5 | V8.2 | V8.2 |
| I64 V8.2-1 | V5.5 | V8.2-1 | V8.2-1 |
| VAX V5.5-2 | V4.0 | V5.5-2 | – |
| VAX V6.2 | V4.2 | V6.2 | V6.3 |
| VAX V7.3 | V5.3 | V7.3 | V7.3 |

2.5 日本語ドキュメント

日本語 DCPS V2.5 では以下のドキュメントを改訂しています。

- 『ソフトウェア仕様書』 (SPD)
- 『リリース・ノート』
- 『インストール・ガイド』
- 『ユーザーズ・ガイド』
- 『システム管理者ガイド』
- オンライン・ヘルプ

本リリースでは、以下のドキュメントについては改訂していません。前バージョンのものがそのままご利用いただけます。

- 『日本語トランスレータ・リファレンス・マニュアル』

英語版 DCPS Version 2.5 について

ここでは、DCPS V2.5における変更点について説明します。これらの変更点のいくつかは本書の別の章でも説明していますので適宜参照してください。

3.1 DCPS V2.5 の変更点

3.1.1 新しいプリンタのサポート

DCPS V2.5 では新たに以下のプリンタをサポートします。

- HP Color LaserJet 3000
- HP Color LaserJet 3800
- HP Color LaserJet 4610
- HP Color LaserJet 4700
- HP Color LaserJet 4730 MFP
- HP LaserJet 1300
- HP LaserJet 1320
- HP LaserJet 4240
- HP LaserJet 5200
- Xerox DocuPrint N4525

3.1.2 LPD サポートの拡張

DCPS でリモートの LPD キューをサポートようになり、LPD サポート・プリンタと動作するようになりました。

3.1.2.1 スプール機能の概要

リモートの LPD キューおよび多くの LPD プリンタは、実際にジョブが送信される前にジョブのサイズを認識しておく必要があります。本リリースでは、サイズを判断できるように DCPS が一時スプール・ファイルを作成できるようになりました。ただし、デフォルトでは DCPS の LPD ジョブは V2.4 以前と同じ動作をするため、LPD ジョブをリモートの LPD キューあるいは LPD プリンタへ送信するために特別な操作が必要になります。論理名を定義することにより、システム全体に対してスプールを指定することも個々のキューに対して指定することも可能です。

スプール機能を使用するためには一時的なスプール・ファイルを作成するための特別な処理を必要とするため、プリンタで必要とする場合のみスプール機能を有効にしてください。一般的には、以下のような場合にスプール機能を利用します。

- 別のシステム上のリモート LPD キューに印刷する場合。
- スプール機能なしで DCPS LPD を使用するとプリンタが何も印刷しない場合。
- プリンタに大規模なマルチ機能オプションを追加しており、スプール機能なしで Raw TCP プロトコルあるいは LPD プロトコルを使用したときに DCPS がそれらの装置をサポートしない場合 (オプション装置によっては、後続の印刷ジョブを受け取るための独自の内部キューを持っているものがあります)。

3.1.2.2 スプール機能の有効化

スプール機能を有効にするには、以下のいずれかの論理名を定義してください。デフォルトではどちらも定義されていません。

- DCPS\$SPOOL

この論理名を定義すると、すべてのキューからのすべての LPD ジョブがプリンタあるいはリモート・キューに送られる前に、一時的なスプール・ファイルが作成されます。

- DCPS\$queue-name_SPOOL

この論理名を定義すると、指定したキューからの LPD ジョブがプリンタあるいはリモート・キューに送られる前に、一時的なスプール・ファイルが作成されます。

一時的なスプール・ファイルを作成する場所を指定するには、次の論理名を使用します。この論理名は常に定義されています。

- DCPS\$SPOOL_DIRECTORY

指定したディレクトリにスプール・ファイルが作成され、ジョブがプリンタあるいはリモート・キューに送られた後にスプール・ファイルが削除されます。上記のいずれかの論理名でスプール機能が有効になっていないと、プリント・ジョブはスプールされません。

DCPS のインストール時に DCPS スプール・ディレクトリの場所が定義されていない場合は、インストール時にプロンプトが表示されます。デフォルトのスプール・ディレクトリは SYS\$COMMON:[DCPS\$SPOOL] ですが、スプールが有効になっているすべてのキューに利用可能な、システム・ディスク以外のディレクトリを指定する必要があります。このディレクトリは、DCPS プリント・シンビオン・プロセスと特権ユーザだけがスプール・ファイルを参照できるように保護されます。

3.1.2.3 スプール・エラー

スプール機能に関する次のようなエラーメッセージがあります。

表 3-1 スプール・ファイル・エラー・メッセージ

| エラー・メッセージ | 説明 |
|-----------------|---|
| SPOOLBADDEVICE | DCPS\$SPOOL_DIRECTORY デバイス名にエラーがある |
| SPOOLBADDIR | DCPS\$SPOOL_DIRECTORY ディレクトリが見つからない |
| SPOOLERROR | DCPS\$SPOOL_DIRECTORY でスプール・ファイル作成時にエラー発生 |
| SPOOLFILENOOPEN | スプール・ファイルのオープン・エラー |
| SPOOLNOLOGICAL | 論理名 DCPS\$SPOOL_DIRECTORY が定義されていない |
| SPOOLNOPRIV | DCPS\$SPOOL_DIRECTORY への書き込み特権がない |
| SPOOLNOWRITE | DCPS\$SPOOL_DIRECTORY デバイスが書き込み保護されている |

3.1.3 インストレーション・プロシージャの改善

POLYCENTER Software Installation Utility (PCSI) で DCPS V2.4 をインストールする際、インストレーションを進める前にクラスタ内のすべての DCPS キューを停止させる必要がありました。本バージョンでは、インストレーションに影響を与えるキューのみ停止するというオプションを選択できるよう、インストレーション・プロシージャが変更されています。

3.1.4 フラグ・ページの改善

DCPS のセパレータ・ページの右下にはプリンタについての情報、すなわち製品名、および、もし異なる場合はプリンタ名を表示します (製品名はカスタマイズできませんが各プリンタのプリンタ名は変更できます)。

本リリースから、製品名と区別できるようにプリンタ名を括弧で囲って表示するように変更されました。

3.2 DCPS V2.5 での修正

以下の問題がDCPS V2.5で修正されています。

3.2.1 プリンタ・キューの開始とジョブの削除に関する問題

DCPS V2.3 および V2.4 では、Raw TCP ジョブが Starting 状態にある場合に以下のような問題が発生することがありました。

- DELETE /ENTRY コマンドでジョブを中断した場合に DCPS がそのジョブを削除するのに時間がかかる。
- STOP /QUEUE /RESET コマンドでキューを停止した場合、このキューあるいは他のキューを起動した時に次のようなエラーで失敗する場合があります。

```
%DCPS-F-STREAMUSE, Request 4 for Stream Id n ignored.  
Not consistent with symbiont state
```

開始した starting 状態のジョブは削除要求ですぐに停止されるようになり、キューの停止が原因でその後のキューの開始時に STREAMUSE エラーが発生すること也不再行しました。

3.2.2 トレイ選択時のジョブの失敗

DCPS V2.4 では、INPUT_TRAY パラメータでトレイを指定すると、INTRAYNOTAVL エラー・メッセージを出力してジョブが失敗することがありました。たとえば、/PARAMETERS=INPUT_TRAY=TRAY_2 を指定して HP LaserJet 8150 プリンタに出力する場合に、次のようなエラー・メッセージを出力する場合があります。

```
%DCPS-E-INTRAYNOTAVL, No tray_2 tray is installed on HP LaserJet 8150  
-DCPS-I-JOB_ID, for job MYJOB (queue HP8150_RAW, entry 245) on HP8150_RAW  
  
%DCPS-E-FLUSHING, Rest of Job (to EOJ) will be ignored  
-DCPS-I-JOB_ID, for job MYJOB (queue HP8150_RAW, entry 245) on HP8150_RAW
```

この問題は次のプリンタでトレイを選択した場合に発生します。

HP LaserJet 2100
HP LaserJet 2200
HP LaserJet 8000
HP LaserJet 8100
HP LaserJet 8150

3.2.3 ホチキス止めエラー

LaserJet 9000 プリンタでデフォルトでホチキス留めを行うように設定した場合、DCPS STAPLE=NONE パラメータが機能せず DCPS ジョブは常にホチキス留めを行っていました。本リリースでは、STAPLE=NONE を指定することによりそのプリンタのデフォルトのホチキス留め設定を変更すると、ホチキス留めを行わない正しいジョブを発行するようになりました。

この問題は、他のプリンタに関しては DCPS V2.4 で修正されていますが、LaserJet 9000 に関しては問題が残っていました。

3.2.4 PostScript エラーで LPD ジョブが失敗する問題

LPD キューに対して論理名 `DCPS$queue-name_PRODUCT_NAME` が定義されていない場合、プリント・ジョブが PostScript の“checkconfiguration”エラーで失敗する場合があります。PostScript エラーの報告が有効になっていないプリンタでは、LPD ジョブでどのような PostScript エラーが発生しても、何もエラーを表示せずにジョブが失敗していました。

本リリースでは、この論理名が定義されていないと DCPS はそのプリンタを認識できない“unrecognized”プリンタと判断し、このエラーでジョブは失敗しません。

3.2.5 キットからの AppleTalk ファイルの欠落

OpenVMS Alpha および VAX 用の DCPS V2.4 PCSI キットから AppleTalk ファイル `DCPSS$BE_APPLETALK.EXE` が間違って削除されていました。DCPS V2.5 のキットにはこのファイルが含まれています。

3.2.6 Integrity サーバの性能

OpenVMS I64 で実行する場合、DCPS V2.4 シンビオント・プロセスが印刷時に膨大な CPU 時間を消費することがありました。DCPS V2.5 では、性能が大幅に改善されています。

3.2.7 起動時の間違った OLDSETUP メッセージ

“setup”モードで DCPS を起動する場合、スタートアップ・コマンド・プロシージャがセットアップ・ファイルよりも新しいことを示す間違ったメッセージを受け取る場合があります。セットアップ・ファイルが作成された後にスタートアップ・ファイルが変更されていない場合でも、次のようなメッセージが表示されることがありました。

```
%DCPS-W-OLDSETUP, setup file older than startup file
```

この結果、新しいセットアップ・ファイルが作成され、`DCPSS$STARTU` でキューを起動するコマンドが実行されていました。すべてのキューは正しく起動されましたが、そのセットアップ・ファイルの情報を使用した望ましい動作と比べると、起動に時間がかかっていました。本リリースでは、正しく処理されるようになりました。

プリンタ固有の情報

この章では、特定のプリンタに対して適用される DCPS の使用方法について説明します。なお、『DCPS システム管理者ガイド』および『DCPS ユーザーズ・ガイド』にもプリンタ固有の情報が含まれてますので適宜参照してください。

4.1 プリンタのファームウェア

HP 製プリンタの場合、ファームウェアのバージョンは、そのプリンタの Web ページあるいは WebJetAdmin プリンタ管理ユーティリティの configuration page に“Firmware Datecode”として表示されます。

プリンタのファームウェアに関する情報とプリンタへのダウンロード手順は、HP の Web ページ (<http://www.hp.com/jp/>) から入手できます。プリンタのリンクをクリックした後、サポート&ドライバをクリックしてください。

4.1.1 プリンタのサービス・エラー

HP 製プリンタで PostScript ファイルを印刷する際に、49.4C02 サービス・エラーが発生する場合があります。この問題は、プリンタのファームウェアで修正されています。表 4-1 に、この問題が発生するプリンタと問題を修正するためのファームウェア・バージョンを示します。

表 4-1 ファームウェアによるサービスエラーの修正

| プリンタ | ファームウェア・バージョン |
|------------------------|-------------------|
| HP Color LaserJet 4650 | 20050524 07.003.3 |
| HP Color LaserJet 5550 | 20050524 07.007.3 |
| HP LaserJet 4250 | 20050831 08.009.3 |
| HP LaserJet 4350 | 20050831 08.009.3 |
| HP LaserJet 9050 | 20050617 08.102.2 |
| HP LaserJet 9055 MFP | 20050601 07.004.0 |
| HP LaserJet 9065 MFP | 20050601 07.004.0 |

4.1.2 キューの起動に関する問題

いくつかの HP プリンタは、ジョブの最初の DCPS 同期要求に応答しません。このため、これらのプリンタのキューを起動する前に、プリンタのファームウェアを表 4-2 に示すバージョンにアップグレードするか、あるいは論理名DCPSS\$queueName_NO_SYNCを定義しておく必要があります。この処理を行っていないと、DCPS ジョブは開始されません。詳細は、本書の第 6.3 節、あるいは『DCPS システム管理者ガイド』を参照してください。

また、プリンタのパーソナリティ設定は PS (PostScript) に設定することをお勧めします。ただし、プリンタのパーソナリティを PS (PostScript) に設定するだけではこれらのプリンタの問題は解決できません。

この問題は、以下のバージョンのプリンタ・ファームウェアで解決されます。

表 4-2 推奨される最小ファームウェア・バージョン

| Printer | Firmware |
|------------------------|-------------------|
| HP Color LaserJet 5500 | 20030605 04.016.2 |
| HP LaserJet 2300 | 20030530 04.047.2 |
| HP LaserJet 4200 | 20030530 04.016.1 |
| HP LaserJet 4300 | 20030530 04.016.1 |

なお、HP Color LaserJet 2500 プリンタにはこの制限事項が残っています。

日本語 DCPS の使用上の注意事項および制限事項

この章では、日本語版の DECprint Supervisor に固有の注意事項および制限事項について説明します。

5.1 HP LaserJet プリンタにおける日本語ファイルの出力に関する注意事項

HP LaserJet および HP Color LaserJet プリンタで日本語を含んだデータ (テキストあるいは PostScript) を印刷するには、日本語 PostScript フォントをプリンタにインストールする必要があります (日本語 PCL フォントでは印刷できません)。

LaserJet の日本語 PostScript フォントは、プリンタの機種ごとに別売のメモリ・モジュール (DIMM) またはコンパクト・フラッシュ・メモリ・カードで提供されています。

注文番号や購入方法など、詳細は弊社営業担当までお問い合わせください。

5.1.1 LaserJet プリンタでの日本語出力に関する制限事項

日本語フォントをインストールした LaserJet プリンタには次の制限事項があります。

- 縦書きフォントはサポートされません。
- Shift JIS (RKSJ) エンコーディングの PostScript フォントは提供されていないため、正しく出力できません。
- 日本語フォントを使用した場合、ページ範囲を指定した印刷はサポートされません。

5.2 A4 用紙にランドスケープ・モードで印刷する場合

日本語 DECprint Supervisor V1.2 以前の ANSI トランスレータは、A4 用紙へのランドスケープ・モードで 66 行出力する場合に次のような問題がありました。

サポートされているプリンタの中には、A4 用紙への印刷可能領域が平均的な印刷領域よりも少し狭いものがあります。このようなプリンタでプリント・パラメータが PAGE_SIZE=A4, PAGE_ORIENTATION=LANDSCAPE に設定されていると、印刷時に 66 行目の内容が失われてしまったり、切れてしまう場合があります。

日本語 DECprint Supervisor V1.2 以降に添付される ANSI トランスレータは、A4 用紙へのランドスケープ・モードでの印刷で 66 行目も正しく出力します。これを行うために、ANSI トランスレータが使用するフォント (SGR 15) の縦方向のスペーシングが変更され、A4 用紙の最大印刷可能領域の値が修正されています。

従来のトランスレータの出力結果の方を使いたい場合、DCPS キュー論理名を次の例のように定義します。

```
$ DEFINE/SYSTEM DCPS$<queue-name>_OLD_ANSI_PAGE_SIZES TRUE
```

なお、漢字 ANSI トランスレータに対しては、この修正は行なわれていません。漢字トランスレータ使用時に 66 行目が正常に印刷されない場合は、FULL_A4_LANDSCAPE のレイアウト定義ファイルを使用して印刷してください。

5.3 半角英数字フォント

Ryumin-Light.Roman および GothicBBB-Medium.Roman などの日本語フォントには、JIS ローマ字セット以外の文字は含まれていません。このため、装置制御ライブラリ DCPS\$DEVCTL.TLB の拡張された findfont オペレータで、これらのフォントに対して ISOLatin1 および DEC マルチナショナル文字セットを使用することはできません。

5.4 テキスト・トランスレータ

1. フォーム定義

漢字 LN05 の標準設定では、フォーム・データ用のメモリは 16 ページあわせて 64 K バイトとなっています。この値は、グラフィック・オプションなどの使用で増やすことができます。トランスレータによるフォーム・オーバーレイでは、1 ページあたり 64 K バイトまでのフォーム・データを登録することができます。1 ページあたり 64 K バイトを越えるフォーム・データを登録しようとすると、DECLKF シーケンスそのものが無効になります。PRINT コマンドでマルチファイル指定をした場合、あるファイル内で登録したフォーム・データを他のファイルで使用することはできません。複数のファイルで共通のフォームを使用したい場合は、フォーム・データをセットアップ・モジュールとして登録し、そのモジュールを PRINT コマンドの /SETUP 修飾子で指定してください。

2. 複数ファイルの印刷

複数ファイルを 1 つのプリント・ジョブで印刷する場合、各ファイルの先頭で初期設定が行われます。このため、あるファイルの中で行った設定を、次のファイルで利用することはできません。このようなときは、セットアップ・モジュールに必要なエスケープ・シーケンスを登録しておくことにより、各ファイルの初期状態を制御することができます。

3. LN82R での外字と斜体 (イタリック) 属性の混在

LN82R に印刷されるファイルに外字が含まれ、かつイタリック属性が漢字に対して指定されると、PostScript の FATAL エラーになる場合があります。この場合、プリント・キューを停止し、キューからジョブを削除し、プリンタの電源を入れ直してください。

4. テキスト・トランスレータの性能

テキスト・トランスレータで日本語文書を印刷する場合、必ずしもプリンタ・ハードウェアの最高速度では印刷できません。白黒反転や網かけ、倍角文字、縦書き、外字があるとき、および 1 バイト文字と 2 バイト文字が頻繁に交互に現われるような場合には、印刷速度はさらに遅くなります。

5. テキスト・トランスレータの外字と内蔵フォント

日本語 PostScript プリンタの内蔵漢字フォントは、PostScript のアウトライン・フォントです。外字は日本語 VMS の FEDIT ユーティリティ、または CHARACTER_MANAGER ユーティリティで作成することができますが、このフォントは、40 ドット×40 ドットまたは 32 ドット×32 ドットのビットマップ・フォントです。したがって、外字の倍角文字は内蔵フォントの倍角文字に比べて、印字品質が劣ります (ギザギザが見えます)。

6. 罫線文字

テキスト・トランスレータで使用している罫線文字は、文字間隔/行間隔が文字サイズに比べてかなり大きいときにはつながりません。

また、この罫線は PostScript フォントを使用して表示しているため、表示される位置やサイズによっては装置上で 1 ピクセル程度のずれを生じることがあり、結果として、罫線が一直線にならない場合があります。

7. SIXEL と文字の重ね合わせ

SIXEL とテキストを座標指定 (VPA, HPA など) で位置を指定して、同じページ上で重ね合わせるとき、印刷可能領域上端付近 (通常トップ・マージンの位置) の座標を指定した場合、結果として表示される文字や SIXEL の縦方向 (Y 座標) の位置が LN03/漢字 LN03 とテキスト・トランスレータでは異なります。SIXEL では、どちらも通常は SIXEL の上端の座標が、指定された Y 座標から 70 ピクセル上になるように表示しますが、LN03/漢字 LN03 では、この表示方法を取ったときに SIXEL が印刷可能領域上端を超える場合には、SIXEL の上端の座標が、印刷可能領域上端になるように位置を下げて表示します。このため、印刷可能領域上端付近の座標を指定して文字と SIXEL を重ねた場合に、LN03/漢字 LN03 とテキスト・トランスレータの出力を比べると、LN03/漢字 LN03 の SIXEL はテキスト・トランスレータよりもやや下にずれます。印刷可能領域上端から離れた位置を指定した場合には、両者に違いは見られません。

8. テキスト・トランスレータのプロローグ処理

テキスト・トランスレータは、印刷ジョブの開始時に、大量の PostScript プロローグ処理 (初期設定) を行います。この処理は印刷ジョブの内容によらず常に同じなので、初めからプリンタに常駐させておけば、ジョブの最初の 1 ページが出力されるまでの時間を短縮することができます。デフォルトでは、プロローグを常駐させることにしていますが、このことはテキスト・トランスレータ以外の印刷ジョブにとっては、利用できる PostScript VM (Virtual Memory) が減少していることを意味します。弊社では、PostScript アプリケーションが VM を 400KB 以上使わないようにお勧めしますが、もしもこの制限を守っていないソフトウェアがあると、PrintServer プリンタでは VM が足りないというエラーで実行できなくなる場合があります。PrintServer プリンタとシリアル・プリンタではプロローグを常駐させる処理が異なります。

- 日本語 DEC PrintServer サポートینگ・ホスト・ソフトウェア V4.2 または日本語 PrintServer Software V5.0, V5.1 を使用している場合

このサポートینگ・ホスト・ソフトウェアを使ってブートされた PrintServer では、DCPS と互換性のあるプロローグが常駐しているので、特別に処理をする必要はありません。また、このサポートینگ・ホストでは、プロローグは必ず常駐していなければなりません。

- PostScript シリアル・プリンタの場合

PostScript シリアル・プリンタでは、プリンタの電源投入後の最初のプリント・ジョブで、プロローグが常駐しているかどうかをチェックし、していなければダウンロードします。この時、PostScript パスワードがプリンタ出荷時の設定になっていない場合 (LN82R では 0 でない場合)、プロローグは常駐されません。つまり、PostScript パスワードをデフォルト以外の値に設定することによって、常駐をやめることができます。

9. PostScript フォント UniqueID

テキスト・トランスレータでは、使用する PostScript フォントに対して、UniqueID を指定しています。3658490 から 4194312 の UniqueID は他の PostScript アプリケーションでは使用しないでください。

10. 半角ローマ字フォントの制限

PrintServer では、内蔵 PostScript フォントの Ryumin-Light.Roman および GothicBBB-Medium.Roman の半角ローマ字フォントは、JIS ローマ字以外の文字セットをサポートしません。このため、テキスト・トランスレータでは明朝体半角ローマ字フォントを PostScript Courier フォントで代用しています。

ゴシック体半角ローマ字は PostScript の半角ローマ字を使用しているため、JIS ローマ字または ASCII 文字セット以外の文字セットを指定した場合、存在しない文字は空白 (スペース) 文字で置き換えられます。

11. SETUP モジュールでの印刷

ANSI(ASCII), KANJI, KANJI78 または LA_KANJI データ・タイプの SETUP モジュールを作成し、その中で文字を印刷することができますが、この文字を PRINT コマンドで指定したファイルの先頭ページに印刷することはできません。SETUP モジュールの中で印刷した場合には、PRINT コマンドのファイルを印刷する前に改ページが行われます。ANSI(ASCII), KANJI, KANJI78 または LA_KANJI データ・タイプで SETUP モジュールを作成し、その中でフォント・ローディング命令またはピッチ指定命令を使用したときには、空白(スペース)文字を含む実際の文字の印刷を SETUP モジュールの中で行うことはできません。

12. DECVPFS とマージン

可変ページ・フォーマット選択命令 (DECVPFS) でページ・オリエンテーションを変更する場合、オリエンテーション変更後のページ・マージン (上下マージン, 左右マージン) も同時に指定してください。

マージンを新たに指定しない場合、従来のマージンの値が採用され、シートの外にマージンが設定された状態になることがあります。

13. DECVERP, DECSHORP のパラメータ Ps=0

漢字 LN05 とテキスト・トランスレータの 8 ポイント・フォントの高さは、それぞれ 768 centipoint と 922 centipoint として定義されています。このため、フォントの高さをもとに位置を制御する命令を使うと、出力結果が異なってしまいます。これを避けるため、行ピッチの指定は SPI などでも明示的に行うようにしてください。また、8 ポイント・フォントを使っていないファイルでも GSM (文字サイズ指定命令) の後に、DECVERP, DECSHORP のパラメータで 0 を指定すると、漢字 LN05 とテキスト・トランスレータで行ピッチ/文字ピッチの違いが生じることがあります。この場合も SPI などで行ピッチ/文字ピッチを明示的に指定する事により、同様に互換性を保つことができます。

14. A4 ページ・サイズでの文字ピッチ

A4 ページ・サイズに対して、デフォルト状態での文字属性指定命令 (SGR) で、Ps=10 または 11 によりフォント指定後、文字ピッチ指定命令 (DECSHORP) の Ps=0 を指定した時の文字ピッチは、10cpi でなく 10.3cpi となります。

15. SS2 と SS3

SS2 または SS3 に続いてコントロール・コードがあった時の処理が、LN05 などと異なる場合があります。SS2 または SS3 は、対象となる文字コードの直前に入れるようにしてください。

16. SUB

SUB コードが漢字コードの 1/2 バイト間に割り込んだ場合の処理が、LN05 などと異なります。LN05 では SUB コードを漢字の 2 バイト目とみなして全角のリバース・クエスチョンを出力しますが、テキスト・トランスレータは SUB コードを先に処理するため、漢字は正常に出力されます。

17. DEC DUTCH と DEC FRENCH

DEC DUTCH 文字セットの 4/0 と 7/11 および DEC FRENCH 文字セットの 7/14 は、マニュアルの記述と違う文字が出力されます。

18. PLD と PLU

下線，上線，二重下線は，PLD，PLU を行っても移動しません。

19. 垂直タブ

VT によって次の垂直タブ位置まで移動する場合，行間隔が狭すぎるとさらに次の垂直タブ位置まで移動することがあります。このときには，行間隔をひろげるか，または今より小さいフォントを使うことにより，所要のタブ位置に移動することができます。

20. DECVERP と垂直タブ位置

DECVERP (行ピッチ選択命令) を行った場合，垂直タブはホーム・ポジションを基準とした位置にすべて再設定されます。このため，最初の VT による垂直方向の移動量は，現在の位置によって変化しますが，次の VT からは DECVERP によって設定された行ピッチと等しくなります。

21. DECDHLT と DECDWL の組み合わせ

LA_KANJI データ・タイプで，DECDHLT (行拡大命令・4 倍角) がすでに有効となっている行で DECDWL (行拡大命令・横倍角) を指定した場合，DECDWL は無視されます。同じ行のなかで行拡大命令を組み合わせることは避けてください。

22. DECSTBM と DECVERP

LA_KANJI データ・タイプでは，DECSTBM (上下マージン設定命令) で設定されたマージンは DECVERP (行ピッチ選択命令) ではクリアされません。この場合，DECSTBM によってマージンを再設定してください。

23. SHS と DECSHORP または GSM と DECSHORP

SHS (水平ピッチ選択命令) と DECSHORP (水平ピッチ選択命令) の組み合わせ，または GSM (文字サイズ指定命令) と DECSHORP の組み合わせで，水平タブ位置が LN05 などと合わないことがあります。この場合，水平タブのかわりにスペースを使うことにより，同じ出力を得ることができます。

24. JFY

JFY (行揃え) をオフに設定した行は，その 1 行すべてが行揃えされなくなります。

25. DECVERP と DECSLPP

DECVERP (行ピッチ選択命令) によって行ピッチが指定されていた場合，DECSLPP (用紙長設定命令) で設定した行数より 1 行早く改ページする場合があります。このときには，行間隔をひろげるか，または今より小さいフォントを使うことにより，指定した行数で改ページするようになります。

26. DECVERP による縦倍角のクリア

LA_KANJI データ・タイプでは、GSM(文字サイズ変更命令)による縦倍角指定は、DECVERP (行ピッチ選択命令)によって解除されます。

27. ファイルの先頭にある改ページまたは改行 + 改ページ

テキスト・ファイルの先頭が、改ページ・コードまたは改行 + 改ページで始まる場合、漢字 LN03 に比べて余分な白紙が 1 枚多く出力されることがあります。このようなときは、先頭の不要な改ページ・コードを取り除くか、またはファイル・フォーマットを stream_LF に変更することにより、漢字 LN03 と同様な動きになります。

28. DEClaser2400 (漢字 LN10) との違い

DEClaser 2400 で提供されている以下の機能は、テキスト・トランスレータでは利用できません。

- ・ 漢字アウトライン・フォント・オプションによる、フォントのスケーリング

29. 文字属性

文字属性にアンダーライン、二重アンダーライン、抹消ライン、反転、または網かけが設定されている場合、文字ピッチの設定およびそのときに使用される文字フォントの組み合わせによっては漢字と英数字との間で文字属性に 1 ピクセル程度のずれを生じることがあります。

テキスト・トランスレータと他のプリンタとの上記以外の機能の違いは、「日本語トランスレータ リファレンス・マニュアル」を参照してください。

5.5 日本語版 DCPS に関するその他の情報

この節では、日本語 DCPS 製品に関する一般的な情報で、他のドキュメントに含まれないものを示しています。

5.5.1 カラー・セパレータ・ページと日本語 PrintServer 17/600 給紙トレイ切り替えの相互作用

日本語 PrintServer Software V5.0, V5.1 では、日本語 PrintServer 17/600 プリンタに給紙トレイの自動切り替え機能を提供しています。これにより、現在の給紙トレイが空になったとき、プリンタは同じサイズ of 用紙が入っている別の給紙トレイに、自動的に切り替えます。この機能は省略時設定で有効です。

現在色つきの紙のフラグ・ページを使用している場合、この給紙トレイ切り替え機能を無効にできます。以下のステップを実行してください。

1. LPS\$SUPPORT:LPSDEFAULTS.*printer-name* を編集する

2. /TraySwitch パラメータを検索する

```
/TraySwitch true                % Controls input tray failover.  
                                % false = disable  
                                % true = enable
```

3. /TraySwitch パラメータの値を、「true」から「false」へ変更する。必ず小文字で「true」か「false」と記述してください。

```
/TraySwitch false              % Controls input tray failover.  
                                % false = disable  
                                % true = enable
```

4. 新しい値を有効にするために、日本語 PrintServer 17/600 プリンタを再構成またはリブートする

詳しくは『DEC PrintServer Supporting Host Software for OpenVMS Management Guide』を参照してください。

DCPS の制限事項

この章では、DECprint Supervisor に関する注意事項および制限事項について説明します。

日本語版の DECprint Supervisor に固有の制限事項については、第 5 章で説明しています。また、プリンタ固有の制限事項については、第 4 章、『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS システム管理者ガイド』、および『日本語 DECprint Supervisor for OpenVMS ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

6.1 OpenVMS V8.2 およびそれ以降のバージョンにおける AppleTalk

DCPS が使用するネットワーク・プロトコルの 1 つとして、OpenVMS Alpha および VAX システム上のレイヤード製品である PATHWORKS for OpenVMS (Macintosh) で提供される AppleTalk があります。この製品はすでにリタイヤしておりサポートされていませんが、DCPS はその後も AppleTalk キューとの動作が可能でした。

しかし、OpenVMS V8.2 でオペレーティング・システムに対して行われた変更により、AppleTalk プロトコルは開始できなくなりました。このため、OpenVMS V8.2 以降、DCPS は AppleTalk キューと動作することはできません。

OpenVMS V8.2 以降は、次のようなメッセージが表示され、キューの起動に失敗します。

```
%DCPS-F-CANNOTSTART, cannot start queue queue_name
%DCPS-F-TRANSPORTNOTSUP, transport not supported - AppleTalk
%SYSTEM-F-IVPARAM, invalid parameter specified
```

OpenVMS クラスタ環境で AppleTalk プロトコルを使用したい場合は、可能であれば、キューを実行するノードを OpenVMS V8.2 より前のバージョンに変更してください。

6.2 自動検出機能付きプリンタを使用する場合の注意事項

多くのプリンタでは、プリント・ジョブのデータ・タイプを検出することができます。このようなプリンタでは、フロント・パネルまたはプリンタ管理ソフトウェアを使用して、接続チャネル毎に自動検出の状態と自動検出機能が有効になっているかどうかを調べることができます。

この機能を提供するほとんどのプリンタについては、プリンタが“PostScript”モードあるいは“Auto-Sensing”モードに設定されている場合に日本語 DECprint Supervisor ソフトウェアが正しく動作します。このため、このようなプリンタでは、DCPS キューを起動する前に上記のいずれかのモードで動作するように設定しておかなければなりません。プリンタが“PCL”モードに設定されていると DCPS ソフトウェアは正しく動作しません。

詳細については、本書の第 4 章および『DCPS システム管理者ガイド』を参照してください。

6.3 Raw TCP/IP または LAT キューでのジョブの "Starting" 状態

ほとんどのプリンタは DCPS ジョブの冒頭で PostScript 同期化コマンドに応答しますが、場合によっては応答しないプリンタもあります。あるキューですべてのジョブが Starting 状態になっている場合は、次のいずれかの対処を行う必要があります。

- プリンタの言語設定を変更する

ほとんどの場合、プリンタの言語識別モードを、PostScript と PCL の自動検出ではなく PostScript に設定することで、この問題が解決できます。適切なポートに対して言語を変更する手順については、ご使用のプリンタのドキュメントを参照してください。

- NO_SYNC 論理名を定義する

プリンタの設定を変更しても問題が解決されない場合には、論理名 `DCPS$queueName_NO_SYNC` を定義し、キューを再起動することにより、DCPS に PostScript 同期化コマンドをスキップするように通知することができます。これは、組み込みネットワーク・インタフェース・カード (NIC) 上で Raw TCP/IP または LAT 接続を使用するプリンタで機能します。他の相互接続を経由して接続されているプリンタを使用している場合には、何の効果もありません。

6.4 Raw TCP/IP キューでのジョブの "Starting" 状態

Raw TCP/IP 接続を使用する DCPS キューを設定する際にプリンタに不正な TCP ポート番号を指定した場合、そのキューに出力したプリント・ジョブは "Starting" 状態のままとなります。これは、DCPS がネットワーク障害とプリンタのビジー状態あるいはオフライン状態を区別できないため、DCPS がユーザによる不正なポート番号指定であるかどうかを判断することができないことが原因です。

これ以外の理由によっても Raw TCP/IP キュー内のプリント・ジョブが "Starting" 状態のままとなる場合があることに注意してください。

プリンタ、ネットワーク・インタフェース・カード、プリント・サーバ、ターミナル・サーバのドキュメントをチェックし、正しいTCPポート番号を使用していることを確認してください。TCPポート番号については、本書の表 A-1 にも記述されています。

6.5 Raw TCP/IP キューの接続の切断

HP Color LaserJet 9500, LaserJet 9055 MFP, あるいは LaserJet 9065 MFP などのデータ・スプール用に大きなメモリあるいはディスクを備えたプリンタでは、Raw TCP/IP 接続を使用している場合に、長いプリント・ジョブで CONTERMINATED エラーが発生する可能性があります。

単一のファイルから構成されるジョブあるいはプリンタのネイティブ PostScript 互換機能のみを使用している場合、このエラーはジョブの最後で発生する傾向があり、(キューに対してトレーラを指定している場合) トレーラ・ページは出力されず、(プリント・ジョブのアカウント機能を有効としている場合) アカウント情報は消失します。これ以外のジョブについてはジョブの途中で発生する可能性があり、トレーラ・ページと同様に以降のドキュメントは出力されず、(プリント・ジョブのアカウント機能を有効としている場合) アカウント情報は消失します。DCPS は中断されたジョブを再度キューに登録して "Holding" 状態とし、ユーザによる問題解決後に再度そのジョブを出力できるようにします。

HP JetDirect カードを含むいくつかのネットワーク・デバイスでは、指定された時間内にホスト・システムから入力を受け取らない場合には、TCP/IP 接続が切断されます。これは、ホスト・ソフトウェアによるデバイスの専有を防ぐための機能です。ただし DCPS は、プリンタが PostScript から別のネイティブ・プリンタ言語に切り替える場合、あるいはトレーラ・ページの出力およびアカウント情報の収集を行う場合、その前に出力したドキュメントをプリンタが出力したことという通知を受け取るまで待ちます。この場合はたとえプリンタがビジー状態であっても、指定されたタイムアウト時間が経過するまで、NIC は DCPS からのそれ以上の入力を受け取ることができません。

NIC の TCP/IP アイドル・タイムアウト時間の変更が可能である場合は、タイムアウトを無効とすること、あるいはタイムアウト時間を長くすることによってこの問題を回避することができます。NIC のドキュメントをチェックして、これが可能であるかどうか、また可能であればその方法を確認してください(最近の HP のプリンタでは、この設定を TCP/IP のアイドル・タイムアウトと呼んでいます)。続いて、必要な出力が得られないため、キューに再登録されたジョブを解除し、キューに再登録されているその他のジョブを削除してください。

重要なのはジョブのサイズではなく、その処理にかかる時間であることに注意してください。たとえば、非常に小さな PostScript プログラムであっても、出力に非常に長い時間がかかる場合があります。このため、どの程度のタイムアウト時間が適当であるのかを予想することは一般的に困難です。

6.6 使用不能な Raw TCP/IP プリンタについての NOT_READY 警告メッセージ

Raw TCP/IP 接続を使用するプリンタのキューにジョブを登録した際に、そのプリンタがビジー状態あるいはオフライン状態である場合は、そのプリンタについて NOT_READY 警告メッセージが表示されます。プリンタがビジー状態にあることが確実である場合は、このメッセージを無視することができます。DCPS は、プリンタがビジー状態であるか、オフライン状態であるか、その他の理由により使用不能であるかを区別することができません。

6.7 カラー PostScript を生成できないトランスレータ

DCPS で提供されているトランスレータ (たとえば ReGIS) は、カラー情報を含んでいるソース・ファイルであっても、カラー PostScript コマンドを生成することはできません。カラー情報は、グレースケールに変換されます。

6.8 PostScript Level 2 プリンタでのジョブのトレーラ・ページのシフト排紙

PostScript Level 2 プリンタで各ジョブを分離して出力するようにジョブ・シフト排紙を有効にしている場合、ジョブ本体とそのトレーラ・ページ間でシフト排紙が発生します。

6.9 特定のプリンタでの ANSI トレイ選択不可

トレイ選択のエスケープ・シーケンスを含む ANSI ファイルを出力する場合、使用しているプリンタによっては出力できない可能性があります。この場合、offending command is "setpapertray" という PostScript 構成エラーが発生してジョブが中断されます。

また、Compaq Laser Printer LN16 などのいくつかのプリンタでは、PostScript トレイ番号 0 の給紙トレイを持っています。トレイを選択するために ANSI エスケープ・シーケンス DECASFC が使用されますが、0 という値はトレイの変更がないという意味であり、トレイ 0 の選択はできません。たとえば、次の ANSI エスケープ・シーケンスはトレイ 0 を選択せず、トレイの変更なしを示します。

```
<CSI>0!v
```

この問題の回避策は、TRNSXLATE_DICT ディレクトリ内に settoptray、setbottomtray、setlcitrays という PostScript コマンドを再定義するセットアップ・モジュールを作成して起動することです。

たとえば、Compaq Laser Printer LN16、DIGITAL Laser Printer LN15 あるいは LN15+ の場合は、settoptray、setbottomtray、setlcitray を次のように定義するセットアップ・モジュールを作成します。

```
TRN$XLATE_DICT begin
  /settoptray      { statusdict begin 0 setpapertray end } def
  /setbottomtray   { statusdict begin 1 setpapertray end } def
  /setmanualfeedtray { statusdict begin 3 setpapertray end } def
end
```

たとえば HP LaserJet 4M Plus の場合には、settoptray、setbottomtray、setlcitray を次のように定義するセットアップ・モジュールを作成します。

```
TRN$XLATE_DICT begin
  /settoptray      { statusdict begin 3 setpapertray end } def
  /setbottomtray   { statusdict begin 0 setpapertray end } def
  /setlcitray       { statusdict begin 1 setpapertray end } def
end
```

PostScript トレイ番号は、『DCPS ユーザーズ・ガイド』に記述されています。

6.10 ホストにステータス・メッセージを送信しないいくつかのプリンタ

内部的なアーキテクチャのため、いくつかのプリンタではプリンタと通信しているホスト・システムではなく、プリンタ・コンソールにステータス情報を通知するものがあります。このため DCPS はいくつかのステータス状態（たとえば紙切れ、紙詰まり、複雑すぎるページ、カバーの開放など）を検出できないため、ユーザにその状態を通知することができません。その代わり、その後に DCPS がそのプリンタと通信しようとした場合に、DCPS キューは "Stalled" 状態となります。これは最初にこの問題が発生したジョブで表示されることも、その後のジョブで表示されることもあります。

この問題が発生するプリンタは次のとおりです。

- DEClaser 5100 プリンタ
- LN17ps プリンタ
- いくつかの HP LaserJet III プリンタおよび IV プリンタ（ただし、紙詰まりの回復機能が無効となっている場合、HP PostScript-Plus Level 2 カートリッジの付いた HP LaserJet III および HP LaserJet IIISi では発生しません。）

6.11 プリンタ名の出力に関する問題

各国語対応文字が PostScript "printername" で使用されている場合、セパレータ・ページの下部に出力されるプリンタ名が間違った文字セットで出力される可能性があります。

6.12 DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services を必要とする DDIF 出力

DDIF エンコード 2 値イメージを出力するには、DCPS は DECwindows ソフトウェアあるいは DECimage Application Services (DAS) がシステムにインストールされていることを必要とします。DAS は OpenVMS VAX システムだけで使用可能です。

6.13 NUMBER_UP および PostScript ドライバの互換性

ユーザ・アプリケーションで LaserWriter 8.0 または 8.1.1 ドライバ、あるいは Adobe 2.1.1 Windows ドライバを使用して作成された PostScript ファイルは、1 より大きな NUMBER_UP が指定された場合に正しく出力されません。

この場合、ページが抜けたり、NUMBER_UP ページ位置とは異なる位置に出力されたり、間違った拡大縮小率で出力されるという現象が発生します。

6.14 PAGE_SIZE パラメータを無視する LIST トランスレータ

LIST トランスレータは、ページのフォーマットの際に PAGE_SIZE パラメータを無視します。この場合、LIST トランスレータは A (レター用紙) および A4 用紙に適合する最大サイズのページを作成します。

ポートレートの場合: 80 カラム, 70 行
ランドスケープの場合: 150 カラム, 66 行

PAGE_SIZE および SHEET_SIZE パラメータの両方を指定して、論理ページを拡大縮小して異なるサイズの用紙に出力することが可能です。

6.15 挿入された PDL コマンドの無視、バイナリ・モードは避けるべきこと

DEClaser 5100 および HP LaserJet IV ファミリーなどの PDL プリンタ用のファイルを作成するドライバは、HP Printer Job Language (PDL) 内にプリンタ制御コマンドを含んでいます。DCPS はそのデータを検出して無視します。このため、そのようなドライバによって選択されたプリンタ・オプションはプリンタ・ジョブに影響を与えません。

これらのドライバを使用する場合は、バイナリ・モードを選択してはなりません。バイナリ・モードでは、DCPS を経由して出力する場合に不正な動作を引き起こす可能性のあるコマンドをファイルに追加するからです。DCPS トランスレータを経由してジョブが渡されたかどうかに関わらず、出力フォームはキューに実際に接続されているプリンタに依存しています。

6.16 接続を拒否している PrintServer プリンタに対する STOP /QUEUE /RESET の使用回避

ジョブが "Starting" 状態であり、プリンタが接続を拒否している場合 (たとえば、その PrintServer の電源が落ちている、あるいはブート中である場合) に、弊社の PrintServer プリンタのキューに対して STOP /QUEUE /RESET コマンドを実行すると、そのキューは停止します。まれに、そのシンピオント・プロセスが停止する可能性があります。PrintServer プリンタが使用可能となるまで、このコマンドを実行することは避けてください。ジョブが "Starting" 状態であり、PrintServer プリンタのジョブ・キューに登録されている場合、STOP /QUEUE /RESET コマンドは正しく実行されます。

6.17 DELETE /ENTRY でのジョブのトレーラ・ページの出力

プリンタでジョブのトレーラ・ページ出力中に DELETE /ENTRY コマンドを実行した場合、このページの出力を削除することは可能です。また、ファイルのすべてのデータを転送して PrintServer プリンタにジョブを出力している場合であっても、そのジョブに対する DELETE /ENTRY コマンドを実行して、そのジョブのトレーラ・ページが出力されないようにすることは可能です。

6.18 /COPIES を指定した出力時の PostScript ファイルの問題

PostScript ファイルに /COPIES 修飾子を指定した場合、DCPS は各ファイルの前後に PostScript の "save" および "restore" を追加して、プリンタ内の仮想メモリの消費を避けるようにします。

ただし、まれに不正な restore エラー・メッセージを表示してプリント・ジョブが中断する場合があります。この現象が発生した場合は、/COPIES ではなく /JOB_COUNT 修飾子を使用してください。

6.19 /JOB_COUNT を指定した場合の PAGE_LIMIT 使用の問題

/JOB_COUNT 修飾子を指定した場合に PAGE_LIMIT パラメータを使用すると、期待していない出力となる可能性があります。特に、ジョブの最初の何ページかを出力しないように指定した場合、DCPS は最初のコピーについては指定されたページを出力しませんが、以降のコピーについてはすべてのページを出力してしまいます。ジョブの最後の何ページかを出力しないように指定した場合、DCPS は最初のコピーについては指定されたページを出力しませんが、以降のコピーについては指定を無視して出力してしまいます。

いくつかのページを出力しないで複数のコピーを必要とする場合は、/JOB_COUNT 修飾子を使用するのではなく、必要な回数だけ PRINT コマンドを実行するようにしてください。

6.20 I/O バッファ設定が小さすぎる場合の OPCOM エラー発生の可能性

SYSGEN パラメータの MAXBUF で設定された I/O バッファのサイズが小さすぎる場合、プリンタ・キューが停止し、OPCOM に次のメッセージが表示されます。

```
%SYSTEM-E-EXQUOTA, process quota exceeded
```

このエラーが発生した場合は、SYSGEN パラメータの MAXBUF の値を増やしてください。

DCPS に影響を与えるその他の制限事項

この章では、日本語 DECprint Supervisor に影響を与えることが確認されているその他の問題、ならびにその問題を処理する必須パッチ・キット (ECO) についての情報を提供します。その他のバージョン用のパッチ・キットが提供されている場合もありますが、ここでは、サポートされるバージョンの OpenVMS のパッチ・キットを示します。

必須パッチ・キットは、次のいずれかの方法で入手することが可能です。

- 弊社のカスタマ・サポート・センターに問い合わせて入手する。
- 次の URL の HP IT Resource Center (ITRC) からダウンロードする。<http://www.itrc.hp.com>

7.1 時刻変更後の DCPS プロセスによる CPU 時間の消費

特定の状況において、DCPS シンビオント・プロセスが CPU 時間を過剰に消費する場合があります。たとえば、標準時の夏時間調整のために時刻を進めた場合に、DCPS などのマルチスレッド・プロセスは急な CPU ループに入ります。この問題はプロセスを停止させ、再起動することにより解決できます。

下記のパッチを適用することで、次の夏時間調整時に同じ問題が発生するのを回避できます。

- VMS732_TDF-V0200, for OpenVMS Alpha V7.3-2 systems
- VMS73_TDF-V0500, for OpenVMS Alpha V7.3-1 systems
- VMS73_TDF-V0100, for OpenVMS Alpha V7.3 systems

時間の同期に DTSS を使用する場合は、以下の DECnet のパッチも適用しておく必要があります。

- AXP_DNVOSIECO01-V732, for OpenVMS Alpha V7.3-2 systems
- AXP_DNVOSIECO03-V731, for OpenVMS Alpha V7.3-1 systems
- AXP_DNVOSIECO04-V73, for OpenVMS Alpha V7.3 systems
- VAX_DNVOSIECO04-V73, for OpenVMS VAX V7.3 systems

7.2 キューの起動による無効なデバイス名のエラー

Raw TCP プロトコルを使用する自動起動 DCPS キューを初期化して起動する場合、キュー・マネージャが "invalid device name" エラーで処理に失敗する場合があります。

```
%%%%%%%%%% OPCOM 26-SEP-2002 09:33:42.58 %%%%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on LATEST
%QMAN-I-QUENOTSTART, queue TEST4 could not be started on node LATEST

%%%%%%%%%% OPCOM 26-SEP-2002 09:33:42.58 %%%%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on LATEST
-QMAN-I-QUEAUTOOFF, queue TEST4 is now autostart inactive

%%%%%%%%%% OPCOM 26-SEP-2002 09:33:42.58 %%%%%%%%%%%
Message from user SYSTEM on LATEST
-SYSTEM-F-IVDEVNAM, invalid device name
```

この問題は下記のパッチ・キットで解決できます。

- VMS731_QMAN-V0100 (OpenVMS Alpha V7.3-1 システム用)

7.3 マルチストリーム・シンビオントでのキュー起動の問題

マルチストリーム・プロセスとして日本語 DECprint Supervisor を起動している場合は、Queue Manager 必須アップデートを必ずインストールしなければなりません。

Queue Manager 必須アップデート・キットは次のとおりです。

- ALPQMAN03_062, OpenVMS Alpha V6.2 システム用
- VAXQMAN05_062, OpenVMS VAX V6.2 システム用
- VAXQMAN03_070, OpenVMS VAX V5.5-2 システム用

上記のアップデートは、マルチストリーム・シンビオントを起動している特定の環境下で START /QUEUE コマンドがハングするという問題を解消します。キットで提供されているリリース・ノートには、このアップデートによって解消されるすべての問題について記述しています。このアップデートをインストールした後は、システムをリブートして変更を有効にする必要があります。

このアップデートをインストールしていないシステムでは、マルチストリーム・プロセスで実行しているキューを STOP /QUEUE /RESET で停止した後、直ちに START /QUEUE で起動すると、ハングする可能性があります。さらに、次のメッセージが OPCOM に書き込まれることがあります。

```
%DCPS-F-STREAMUSE, Request 4 for Stream Id n ignored.
Not consistent with symbiont state
```

ハング状態から回復するには、Ctrl/Y を押して DCL プロンプト表示に戻り、続いて再度 STOP /QUEUE /RESET を実行し、数秒待ってから再度キューを起動するようにします。この問題を回避するには、Queue Manager アップデートをインストールしてください。

7.4 シリアル接続プリンタの I/O エラー

OpenVMS ターミナル・ドライバに問題があり、OpenVMS システムのシリアル・ポートに接続したプリンタが I/O エラーを通知する場合があります。この問題は、使用しているシリアル・ポートの種類に依存していますが、OpenVMS Alpha V6.2 ~ V7.0 および OpenVMS VAX V5.5 ~ V7.0 で発生します。

問題は、プリンタのデータ消失防止用の XOFF 要求に対して、ターミナル・ドライバの応答が遅くなる場合があることです。この問題は OpenVMS Alpha V7.1 で解消されました。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- ALPOPDR04_062, OpenVMS Alpha V6.2 システム用

7.5 アクセス違反あるいは不正パラメータ・エラーによるシンビオントの強制終了

DCPS シンビオントは、CMA (DECthreads) 機能に問題があることを示していると思われる ACCVIO あるいは BADPARAM エラーが発生して、フェールする可能性があります。TCP/IP Services for OpenVMS や DECthreads 機能をベースにしたその他レイヤード製品など、システム上のその他のソフトウェアもフェールする可能性があります。

この問題は、デルタ時間が 10,000 日よりも短いという長年の OpenVMS の制限に関連しています。特に、UNIX 基準時間として 1970 年 1 月 1 日を使用している POSIX 関連のソフトウェアは、この制限に遭遇する可能性があります。

この問題は、次のパッチ・キットで解消されます。

- ALPLIBR07_070, OpenVMS Alpha V6.2 システム用
- VAXLIBR06_070, OpenVMS VAX V5.5-2 および V6.2 システム用

Raw TCP/IP ポート番号

raw TCP/IP プロトコルを使用して DCPS キューを設定する場合は、使用している NIC (ネットワーク・インタフェース・カード)、プリント・サーバ、ターミナル・サーバのいずれかのドキュメントを参照して、その raw TCP/IP ポートの番号を決定してください。

表 A-1 に、一般的に使用されるデバイスのポート番号を示します。

表 A-1 raw TCP/IP ポート番号

| | |
|------|---|
| 20nn | DECserver ターミナル・サーバ ("nn"は物理ポート番号) |
| 2501 | DIGITAL LN17ps および DIGITAL Laser Printer LN17+ps Emulex NIC |
| 3001 | DIGITAL Laser Printer LN15 および LN15+ DIGITAL RapidPrint 500 プリント・サーバ |
| 6869 | Compaq Laser Printer LNC02 DIGITAL Laser Printer LN20, LN40, LNC02 |
| 9100 | Compaq Laser Printer LN16, LN32, LNM40 GENICOM Intelliprint mL, LN および microLaser プリンタ GENICOM RapidPrint MPS1000 プリント・サーバ HP Color LaserJet プリンタ HP LaserJet プリンタ IBM InfoPrint プリンタ Lexmark C, Optra S, Optra T, T および W シリーズ・プリンタ Tektronix Phaser プリンタ Xerox DocuPrint N プリンタ HP JetDirect, Lexmark および XCD プリント・サーバ OKI MICROLINE RICOH IPSiO |
| 9101 | HP 9085 MFP |

日本語 HP DECprint Supervisor (DCPS) for OpenVMS
リリース・ノート

2006 年 7 月 発行

日本ヒューレット・パッカート株式会社

〒140-8641 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー

電話 (03)5463-6600 (大代表)
